

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590700011		
法人名	医療法人 秀英会		
事業所名	グループホーム長寿	ユニット名	Aユニット
所在地	宮崎県串間市大字奈留5333番地		
自己評価作成日	平成29年9月11日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JijyoSvCd=4590700011-008&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JijyoSvCd=4590700011-008&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年10月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム長寿は自然に囲まれ春にはノビルやワラビなどの山菜がとれ散歩が楽しくなります。周辺には歩いて行ける距離に病院、スーパー、郵便局など何でもあるので、なに不自由なく生活ができます。併設の介護老人保健施設と渡り廊下でいつでも行き来でき利用者様同士の交流や合同誕生会なども行われます。英医院がかかりつけ医で安心して医療を受けることができます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療機関や介護老人保健施設と隣接し、相互に連携して運営している。運営者は地域に根ざした医療や福祉に力を入れ、近隣住民によるランドゴルフ大会の支援や清掃活動、夏祭り等、地域密着サービスの意義を踏まえた地域との交流を行っている。また、「ふるさと訪問」という独自の事業に取り組み、自宅訪問や友人、知人との交流、墓参り等、利用者が大切にしてきたなじみの関係が途切れないよう、家族と協力して支援している。また、働きやすい環境や法人内での人材育成にも尽力し、ケアの実践に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に認知症介護実践者研修に参加したスタッフを中心に全スタッフで考え作り上げた理念があり、毎朝の朝礼時に理念の目標を立て業務に取り組んでいる。	理念を毎朝職員で唱和し、目標を持ったうえで、毎日のケアの実践に取り組んでいるほか、夕方には毎日のケアの振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋外散歩時にグランドゴルフをされている方々との交流が多くみられたり、法人が主催するグランドゴルフ大会や夏祭り、地区の清掃活動に地域の方々にも参加して頂いている。	地域の清掃や夏祭りへの参加、法人主催のグランドゴルフ大会での地域住民との交流や、小学校の生徒との手紙のやり取りなど、様々な地域との交流の機会を設け、実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方の接し方や研修で学んだ知識を伝えている。毎月便りを発行しその中で認知症に関する情報を載せている時もある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。会議で報告した内容について評価やご意見を頂き、介護定例会で全スタッフに伝えるようにしている。	運営推進会議を定期的に行い、積極的に意見交換などを行うことで、事業所の運営等に意見を反映できているが、参加者が固定化されている。	運営推進会議をさらに充実させるために、地元消防団や交番、有識者等、多種多様なメンバーの加入を図り、サービス向上につながるように期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や計画作成者が月初めに市の医療介護担当者へ実績報告を行っている。年に2回ある事業所交流会にも参加している。	市役所と月1回の情報交換を行い、事業所の運営に情報の反映ができるよう努めている。また、地域包括支援センターや市役所と一緒に地域事業所との交流の機会も設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為は無いが『ことばの拘束』があった場合はOJTにて指導を行う。玄関の施錠は行っていないが、以前に離脱事故があった為、玄関が空くと気づくような工夫をしている。	日頃から身体拘束の禁止に関する意識を職員全体で共有している。また事業所内・外の研修に参加し、その知識や技術の向上にも努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いの勉強会『言葉の乱れはケアの乱れ』を行い普段より穏やかな言葉かけができるように努めている。又、できる限り利用者様に役割をもって頂きスタッフが感謝の言葉を掛けることで自然と言葉も丁寧な口調になっていると感じている。			

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会が無かった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計画作成者が行っている。利用料の改定があったので個々に説明し理解を頂いた。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの要望や意見等を聞き、申し送り時にスタッフに伝えたり内容によっては申し送り帳に書いてスタッフ全員が共有できるようにしている。		職員全体で家族とのコミュニケーションが十分に図られ、家族からの要望等の聞き取りが行われている。その要望に関しては申し送りなどを共有し、改善結果等を家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりに面接の時間を設け要望を聞いたり普段からコミュニケーションが図れており意見を伝えやすい雰囲気ができている。		上席者が常に職員への声掛け等を行うなどのコミュニケーションを図っている。職員からの意見は随時ケアの実践や運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で実績を評価したり、業務時間や内容を改め直す機会を設けさせて頂いた。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	殆どの職員が個々に合った研修に参加できるよう計画を立てられている。月に1回の職員会議ではスタッフが勉強会を行い色々なことを学ぶことができる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が行う勉強会や事業所交流会に参加し意見交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は御本人様との触れ合いや面談を必要な回数行い、まずは信頼が得られるように人間関係の形成を目指す。その上で施設見学を勧めご本人様の希望等を伺い安心して入居されるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は御本人様との面談を行い、困り事や心配事を共有し信頼関係を築いた上で具体例等を示し安心して入居できるように説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅担当ケアマネやそれまで深く関わってこられた他サービス関係者の意見を聞き、その入居者に必要な支援の優先順位でプランを立てて支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り利用者様に役割をもって頂き、利用者様、スタッフが共に助け合い支え合う関係を築けるよう家事活動の支援を行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は居室へ誘導し、御家族様、利用者様がゆっくりと過ごして頂けるよう配慮を行っている。面会前や後に御家族様のことを伺ったり現状を報告したり御家族様との会話も大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	定期的には自宅や馴染みの場所に行く『ふるさと訪問』やお墓参りを行い、今まで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないうに支援している。	なじみの環境との交流が途切れないうに「ふるさと訪問」という事業所独自の取組などを家族の協力も得ながら行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のテーブル席でトラブルが続く場合は席替えを行い、できる限り利用者様の希望を聞くようにしている。利用者様同士で会話が成り立たない場合はスタッフが介して対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に入居されている方や御家族にお会いした時はその後の経過等を伺ったりしている。		/	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様、御家族様の要望は元より、アセスメント及び全職員でのモニタリング、カンファレンスの経過を反映して次のプランを作成している。		利用者個別の担当者や計画作成責任者が本人や家族との意見交換を十分に行い、事業所での生活に意見が反映されるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者状況表、基本情報、アセスメント表で利用者様の今までの暮らしを把握して、その後のグループホームでの生活に生かしている。また、御家族様からの新しい情報にも耳を傾けるようにしている。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のリズムをケース記録の24時間シートに記入している。心身の変化があった場合は、毎日の申し送りやグループホームの申し送り帳にて情報を共有している。家事活動やレクリエーション等を通じて御家族様の能力を掴んでいる。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護スタッフは各々の担当利用者のモニタリングを行い全スタッフでのカンファレンスでその時々の問題点や改善事項を出して利用者処遇を行っている。		モニタリングを各担当と計画作成担当者と一緒に行ったうえで、事業所全体でのカンファレンスを行い、事業所全体で介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランの実施状況を記入するようにしているが、1日の様子のみを記入している場合もある。特変時は日誌にも記入し、申し送り時に報告し情報の共有を行っている。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズにカンファレンスを行い看護師、計画作成者、介護スタッフで話し合い外出支援やその時必要なサービスを提供している。		/	

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて行ける距離に併設の医療機関や介護老人保健施設がある為、必要な時は迅速な対応ができる。月に1回の誕生会でボランティアの方々が来て下さり歌や踊りの披露や交流がある。その他、スーパー、郵便局等を利用者様の希望に沿って利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に御本人様、御家族様に併設の医療機関がかかりつけ医になることを説明し同意を得ている。専門医が必要とする利用者様の場合は医療機関で治療を行っている。	家族からの同意を得たうえで、併設医療機関の受診を支援している。また専門医療機関等への受診も家族の協力などを得ながら支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも気づいたことは看護師に報告し指示を仰いでいる。看護師より病院へ連絡し受診を行うようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者へ電話での情報交換や、計画作成者がお見舞いに行った際に現状を聞くなど関係づくりも行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様、医師とその都度十分な話し合いを行いながら方針を決めている。重度化し今後のことについてご家族様、かかりつけ医、計画作成者を中心に話し合いを行いご家族様が希望する支援を行っている。	入居前に十分な説明を行い、重度化した際の方針等について書面での同意を得るほか、その状態に応じて随時、本人や家族の意向を重視した終末期における支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの使い方などの訓練を定期的に行い実践力を身に付けている。急変時の連絡手順を事務所に掲示している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災、震災の避難訓練を防災事業所、消防本部、地域の方々の協力を頂きながら行っている。併設の介護老人保健施設には非常食の備蓄も行っている。	火災や地震について年2回、日中や夜間を想定し避難訓練を実施している。実施の際は併設の医療機関や施設のほか、消防や地域住民の参加や協力を得て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ排泄時や、入浴時など戸を閉めるが見守りを優先しプライバシーの配慮ができなかったこともある。普段からやさしい言葉かけを心掛け、法人理事長からも敬語での言葉かけを指導されている。		本人が慣れ親しんだ呼称での声掛けや、排せつや入浴場面での同性介護など、個人に合わせたプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の言葉かけで利用者様が「はい」「いいえ」で自己決定できるように「お風呂は今からでもいいですか？」等の声掛けを行っている。月に1回昼食が選択メニューの日があり写真を見てメニューを決めて頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者様のペースで生活して頂くが、食事の時間や行事の日程などは決まっている為、職員の都合になっていると思われる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は毎朝行っているが、食事の食べこぼしが服についていることがある。自分で服のコーディネートがされ着られる方もいるが、介助が必要な方に関しては服を見せて決めて頂くか、スタッフが考えて準備を行う。日中なのにパジャマを着ていた時などさりげなく他の洋服をすすめ更衣して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ツワや里芋など大量に採れた場合はテーブルを囲って数名の利用者様に皮むき等の準備して頂くが普段はあまりされない。食後は食器洗いや、御膳を拭く作業を行っている。	事業所敷地内での菜園で収穫した野菜などを調理に活用している。準備等においても利用者個人の能力に応じて片づけなどを行っている。職員と利用者は一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通院時、定期的に血液検査を行い、医師より栄養状況の説明と指示がある。必要に応じて高カロリー飲み物を飲んで頂いたり、水分摂取が少ない方にはジュース等の補水を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは確実にいき、口腔内の清潔と誤嚥防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンス時にオムツの使用方法についての意見が上がり、オムツ類の使用方法の見直しを行い下剤服用時のみ尿取りパットを使用するなど個別での取り組みもある。	カンファレンスなどを通じて利用者個別の排せつのパターンやオムツ類の使用の見直しを行い、おむつの使用枚数軽減やトイレでの排せつが可能な限り行える支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や屋外散歩など適度の運動を行い自然排便を促している。下剤を服用される方もおられ一人ひとり調整を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低2日に1回は入浴を行う。希望を聞き連続して入られる方もおられる。「今でいいですか?」「あとがいいですか?」と聞きその方のタイミングに合わせて入浴を行う。	週2回の入浴を基本に、個別の希望時には可能な限り対応を行っている。入浴の拒否などについても無理強いすることなく、本人のペースに合わせて入浴できるように支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活として自室でゆっくりTVを見たり手芸をされたり自由に生活して頂いている。昼夜逆転が見られる方に関しては夜間安眠できるよう日中は散歩などの活動をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は看護師より介護スタッフへ薬の目的や副作用を伝えている。薬の内容は薬情をその都度確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	殆どの方が役割をもって家事をされている。屋外に行くことやカラオケを楽しみにされている方が多く、毎週のカラオケ大会や散歩、外食や買い物支援も行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩とその都度本人様の希望にそった外出(買い物等)を行っている。遠方等の希望にはその時には応じることができないが計画を立てて後日行くようにしている。	日常的に近隣の散歩を行うほか、事業所行事として日時を確保し、外食や買い物への外出の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	Aユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方もおられるが、殆どの利用者様の所持金は事務所でスタッフが管理をさせて頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があり電話を掛けられることがある。手紙を書かれた時はスタッフと一緒にポストに投函しに行く。今年は暑中見舞いを書くことに挑戦した。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時々ではあるがトイレが混むことがある。季節感を取り入れテーブルや窓際に花を飾ったり掲示板に季節ごとのお知らせや利用者様が書かれた習字を貼っている。	非常に明るく広々としたつくりであり、畳やこたつなども共有スペースに設けられており、家庭的な雰囲気がある。四季に合わせた花々や利用者の作品を展示しており、心地よく過ごせる空間が作られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にマッサージ機の設置や渡り廊下に椅子を置いて外気浴ができるようにしている。食堂の席は気の合った利用者様同士と一緒に座れるように考えている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、御家族様に使い慣れた物を持ってきて頂けるよう伝えているが、物や飾りが少ない殺風景なお部屋もある。	利用者個人が慣れ親しんだ家財を自室に置くことや写真を飾ることにより、落ち着いた生活を送れる工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位での作業が困難な方には座った状態で別テーブルを用意して食事の盛り付けをして頂いたり、洗面所に椅子を用意して自力で口腔ケアができるようにしている。			